

多雪地におけるエゾシカの冬の過ごし方

エゾシカの生息数は明治時代に絶滅寸前まで減少しました。その原因の一つが記録的な豪雪による餓死であったことから、エゾシカは雪に弱い動物であるといわれてきました。しかし、近年では生息数の増加とともに分布域は拡大しており、これまで越冬できないとされてきた道北や道央の積雪の多い地域にまで生息が確認されるようになりました。それでは多雪地に生息しているエゾシカはどのように冬を過ごしているのでしょうか？

エゾシカの越冬地となっている空知支庁管内三笠市の鳥獣保護区において積雪期に足跡の分布状況を調査したところ、1月下旬～2月下旬の厳冬期にはトドマツ人工林と他の林分との境界付近の利用頻度が高いことがわかりました(図-1)。常緑樹であるトドマツの林内は天然林や裸地と比較すると積雪が少なく、強風や吹雪なども緩和してくれることから、エゾシカはトドマツ人工林を厳しい気象条件を回避するための避難場所として利用していると考えられます(写真-1)。一方、多雪地では冬季の主食となるササが雪中に埋没して食べることができなくなるため、エゾシカは天然林やカラマツ林内に生育している小径木の樹皮や小枝を食べることにより餌の少ない時期を耐えていました(写真-2)。このように多雪地に生息するエゾシカは、避難場所となるトドマツ人工林と餌場となる天然林やカラマツ林の両方を利用することにより厳しい冬を乗り越えていることがわかりました。(鳥獣科)

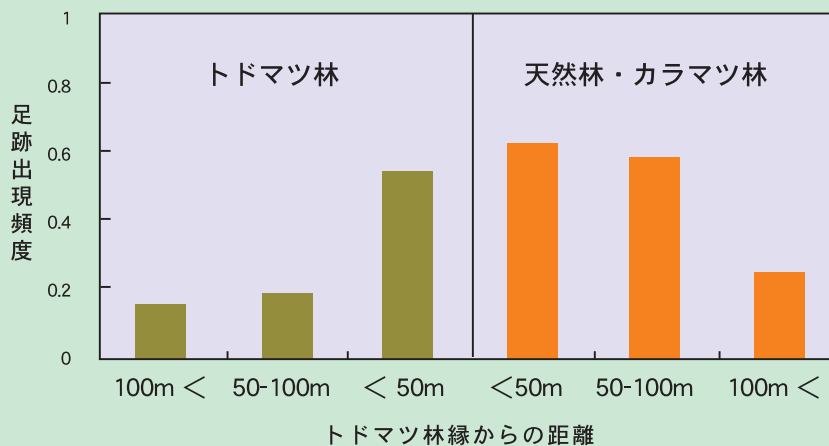


図-1 トドマツ林縁からの距離と足跡出現頻度



写真-1 トドマツ林縁部のエゾシカのこん跡



写真-2 カラマツ林内でみられたエゾシカの食こん